

ハンセン病療養所医療従事者海外研修(第2回)に参加して

～フィリピンのハンセン病療養所から～

耳鼻咽喉科医長 笠井 紀夫

平成27年11月7日～13日、フィリピンを舞台に開催された海外研修に参加させていただきました。これは永らくハンセン病対策に尽力されている笹川記念保健協力財団が主催し、我が国のハンセン病療養所医療従事者を対象として昨年度から開始されたもので、今回が2回目です。フィリピンは、単位人口あたりのハンセン病発生率は低値かつ減少傾向にあるものの、依然として年間2000人近くの新規患者発生があり、また局地的に発生率の高いエリアがあるなど、未だにハンセン病対策に課題を抱える国とのことでした。

今回の研修では、療養所としてハンセン病隔離の島であるクリオン島とエパースレイ・チャイルズ療養所(セブ島)を、ハンセン病外来診療所としてセブスキングクリニック(セブ島)を、ハンセン病患者団体の活動拠点としてフィリピン総合病院ハンセンズ・クラブ(マニラ)を、国を超えた疾病対策

拠点としてWHO西太平洋地域事務局(マニラ)を、それぞれ訪問しました。本稿では、特に印象深かった2つの療養所について簡単に振り返ってみます。

クリオン島

ハンセン病隔離の島として有名ですが、長島よりも遙かに交通の不便な島でした。しかし、大小様々な島が浮かぶ海の風景は瀬戸内海と共通する点が多く、遠い異国にいることを忘れさせるものでした。

20世紀初頭の米国による統治政策により、各地からハンセン病の方々が多数集められ収容されていたこの島も、現在では療養所から地域の基幹病院へと変貌を遂げつつあり、その名も「クリオン療養所・総合病院」となっています。とはいえ、医療施設としてのハード面の整備や専門職の

配置などは、まだまだ不足している印象でした。

島内人口は約2万人とのことで、療養所入所者の子孫の方々が多数居住しています。道端でゲームやバスケットボールに興じる若い世代も目立ち、ハンセン病や隔離という歴史を超越して島全体が共同体となっている印象を受けました。驚いたことに、同療養所・総合病院の所長であるクナナン医師は、療養所入所者のお孫さんだそうです。祖父が隔離されたという歴史を持つ一方で、自らはいったん島を出て医師となり、ハンセン病患者のために隔離の島に戻って奔走する・・・3世代にわたる歴史に思いを馳せると、病氣や偏見と正面から向き合い、乗り越えてきた魂の強さに感銘を受けずにはいられません。

クナナン先生はとても気さくな方で、畑野名誉園長のことも良くご存知でした。何度も来日されているようですが、桜と大相撲を見たことがないとのこと。近いうちに日本で花見と相撲観戦をすべく、再会の約束を交わしました。



所長のクナナン先生:気さくで親切な先生でした。



クリオン島からの風景:大小の島々に囲まれ、瀬戸内海にも似た印象でした。

エパースレイ・チャイルズ療養所・総合病院

セブ島にあり、クリオン島と同様に療養所だけでなく地域の総合病院としての機能整備が進められている施設でした。ランチとして豚の丸焼きが我々を待ち構えていたのも驚きでしたが、パンパンになったお腹をもてあましながらかけた講義の途中で、おやつ?としてマクドナルドのハンバー

ガーを1個ずつ手渡されたのにはまいりました。我々のような研修者を多数受入れているようで、講義やその後の施設案内など、とても組織的に運営されているのが印象的でした。

入所者は療養エリアにて暮らしており、ごちんまりとしたリハビリ棟や病棟などの平屋の建物が広い敷地内に点在しています。とはいえ、病棟といえども冷房はありませんでした。また、入所者の多くは裸足にサンダル履きです。『足に傷を負うリスクを避けるためにも靴を履くべきでは?』と尋ねたところ、返ってきた答えは「長年の習慣だから」「靴を買うのがもったいないから」そして「暑いから」でした。

入所者の方々は、もちろん療養エリアから自由に入出入りすることができます。ただし、総合病院エリアとの間は塀で仕切られ、制服姿の門番が立っていました。その方にこっそり尋ねると、今でも夜になると門を閉めるとのこと。病院としてのセキュリティ確保が目的なのでしょうが、門を閉ざされる入所者はどう感じているのでしょうか。残念ながら彼らに尋ねるチャンスを逃してしまいました。

上記以外にも、ハンセン病の診断・治療・最新知見など盛りだくさんのコンテンツでした。スケジュールはとてもタイトでしたが、得られたものはとても多く、充実した研修であったと思います。私個人としては、ハンセン病に対する関心が俄然増ただけでなく、フィリピンとそこに住む方々の優しさにも触れ、再訪したいとの思いを強くしています。この研修は今後も継続されるとのことですので、機会があれば是非参加されることをお勧めします。



外来棟入口:ドアが無く、開放的です。総合病院でもあるため、施設外からの患者さんも多く来られているようです。



入所者の女性寮:ベッド高がかなり高いです。10名近くの大部屋(冷房無し)でした。